港区立高松中学校　学校だより〈第１１号〉
令和７年３月１８日　校長　中山　幸子

たかまつの森

創立１９４９年（昭和２４年）　高松中学校は今年度で７５周年を迎えました。港区高輪１−１６−２５

どう生きるか～手ごたえのある生き方～

沈丁花の香りが春を感じさせるこの頃です。個人的にとても好きな香りです。

先日の卒業式予行の3年生の歌声に、下級生を指導する教員に熱が入りました。卒業生へのはなむけとして、1、2年生の合唱曲コスモスにどう取り組まなければならないのか、大人も子供もスイッチが入った日でもありました。（3年生はもっと歌えると、3学年所属教員が予行の歌声を評価したのを聞いた2学年の教員は、ハードルを上げないでくださいよと苦笑いした後日談もありますが。）

3年生の最後の晴れの場を、在校生が盛り立てなくてどうすると言わんばかりの教職員と、それに応えようとして練習に励む1、2年生を嬉しく誇らしく感じます。

さて、タイトルに戻りましょう。義務教育最終の中学校を3年生は卒業します。これからは行動範囲も広がり、責任も伴う判断が求められ、徐々に大人に近付いていきます。約15年間の中で学んだ知識や技能、そして経験はまだまだ浅く少ないものです。これらをもとに進んでいくには限界があります。

以前の学校だよりでもお伝えしていますが、人生には**「まさかの坂」**があります。

思いもよらない困難に遭遇したり、喪失感から立ち直れないほどの悲しい出来事を経験してもなお、前に進むしかないときを迎えたりしたら、どうやって生きていきますか？

そのために必要な基礎基本となる教科等のほか、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、支援希求能力、先見性を磨く体験（学校行事等）を、高松中学校で個人差はあれど、学んだはずです。

令和6年度の入学式の式辞で引用した『**君はこれから何度もつまずく。でもそのたびに立ち直る強さももっているんだよ**』（ドラえもん）を送ります。

どうか、自分らしさを見失わず、時が来るまでうずくまってもいいから、最後は自力で飛び越えられる人になってください。

この繰り返しで、あなたは成長し強くて優しい大人になれるだけではなく、なりたい自分に近付けるのだと思います。**なりたい自分へのプロセスは自分に手ごたえを感じられる時間**でもあります。そして、その時間は自分の可能性が実現へと変わっていくのだと確信しています。

卒業生の皆さん、在校生の皆さん、よく考えてみてくださいね。

3年生の皆さん、卒業おめでとうございます。
新たな進路先で幸多かれと願ってやみません。
“自分は可能性の細胞でできている”と、元気がないときはつぶやいてください。
そして、高松中学校に来てください。私たちはいつでも待っています。

保護者・地域の皆様、関係機関の皆様、そして今年度、設置された学校運営協議会の委員の皆様に令和6年度の学校教育がつつがなく終われることに、感謝いたします。本当にありがとうございました。

令和7年度も、どうぞよろしくお願いいたします。